

点検・評価報告書（生物資源科学部）

基準 1 理念・目的

1 現状分析

点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

<評価の視点>

- ・大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。
- ・理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。

① 学部等ホームページに、以下の項目を掲載し、社会に公表していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科ごとの教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。
- 一部の項目を掲載していない。
- その他回答

② 履修要覧に、以下の項目を掲載し、学生に周知していますか。

- (1) 日本大学の目的及び使命
- (2) 日本大学の教育理念
- (3) 日本大学教育憲章
- (4) 学部においては、学部、学科ごと、研究科においては、研究科、専攻の課程ごと、短期大学部においては、学科、専攻科の教育研究上の目的

[自己評価]

- 全ての項目を掲載している。
- 一部の項目を掲載していない。
- その他回答

2 長所・特色・問題点

なし

基準 2 内部質保証

1 現状分析

点検・評価項目①

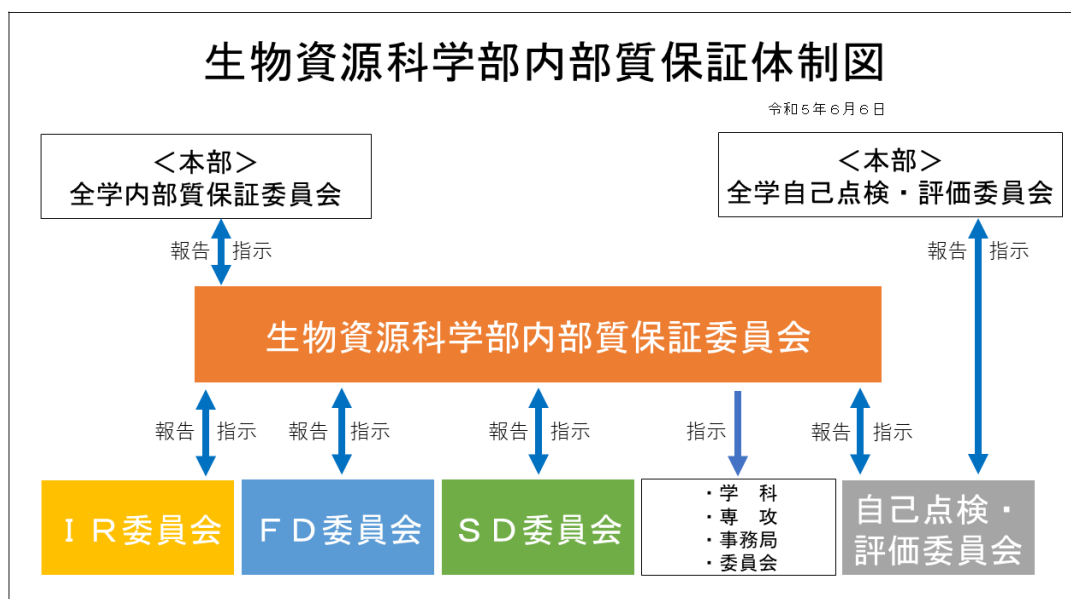
内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

<評価の視点>

- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価をそれぞれ定期的実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。
- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。

③ 学部等において、PDCAサイクルをどのように機能させているか、内部質保証体制（内部質保証推進委員会、自己点検・評価委員会、各委員会組織、教授会、執行部会等の役割や関係性）や、活動内容について記述してください。

令和5年度に生物資源科学部内部質保証推進委員会にて以下の内部質保証体制図及びPDCA評価図を作成し、内部質保証システムの機能化を図った。また、内部質保証に関連する委員会であるIR委員会及びSD委員会について内規を制定し、各委員会における役割等を明確化するとともに内部質保証体制の明確化を図っている。



生物資源科学部内部質保証年間スケジュール(PDCA評価図)

項目	P [Plan]目標・計画	D [Do]実施状況	C [Check]評価	A [Action]改善内容	備考
実施時期	2月～3月	4月～6月	6月～7月	7月～3月	概ねの実施時期
内部質保証委員会	次年度の以下の委員会(以降「各委員会」という)の改善事項及び委員等の検討。 (1)IR委員会 (2)FD委員会 (3)SD委員会 (4)自己点検・評価委員会	各委員会からの、前年度の活動状況及び活動結果等、報告内容の確認及び検証。	各委員会からの報告内容の検証の結果、改善が必要な事項等について、各委員会に対して指示等。 IR委員会に対しては、調査及び分析事項等の指示等。	適宜、各委員会から報告される実施状況、活動状況等の確認、検証。	実施時期に関わらず、適宜必要に応じて委員会を開催。
各委員会	当該年度の活動状況、活動結果等の確認及び集計等。	内部質保証委員会に、前年度の活動状況、活動結果等の報告。 今年度の活動計画の検討、立案及び実施。	内部質保証委員会の指示等を受けて、活動計画の検討、立案及び実施。	各委員会活動の実施。 適宜、内部質保証委員会に対して、実施状況及び活動状況等の報告。	

④ 三つの方針について、どの組織が、どのように検証しているか記述してください。

3つの方針等については、学務委員会が中心となり、客観的な評価・点検を行うために以下の外部機関からの評価・点検を受けている。

- ① 株式会社井出トマト農園，株式会社マルホ，株式会社シンテックによる外部評価
- ② 獣医学科：大学基準協会による獣医学教育評価
- ③ 海洋生物資源科学科，生物環境工学科：一般社団法人日本技術者教育認定機構（J A B E E）による J A B E E 認定評価

なお、令和6年度は、より多角的視点から本学の教育・研究活動を評価し、教育環境の向上及び人材育成や教育活動の活性化を図るために1社（公益社団法人中央畜産会）を追加した。

⑤ 外部評価を実施（令和3年度から令和5年度までの期間）している場合、点検・評価項目を記述してください。

- ① （株式会社井出トマト農園，株式会社マルホ，株式会社シンテック）の外部機関による「3つの方針」に対する評価を実施
- ② （大学基準協会）の第三者評価機関による獣医学教育に関する基準に適合しているかの評価を実施
- ③ （J A B E E）の第三者評価機関による技術者教育プログラムを対象に、学習成果の評価（アウトカムズ評価）を中心とした審査を実施

⑥ 外部評価の結果、改善・向上に取り組んだ事項について記述してください。

例えば、教育課程・学習成果については、成績評価に対する学生からの異議申立て制度について整備されていないため、早急に整備されたい。と改善の指摘があり、学務委員会を中心に改善を実施している。

⑦ 今後、外部評価，分野別評価，法科大学院認証評価，J A B E E 認定を受審する予定があれば記述してください。

既に、一般社団法人日本技術者教育認定機構（J A B E E）による認定評価を以下の2学科で受けおり、令和7年度も受審する。

①海洋生物資源科学科，②生物環境工学科

また、令和7年度に大学基準協会で獣医学教育評価を受審する予定である。

⑧ 教育の質の向上を図るために、学生からの意見を取り入れていますか。取り入れている場合は、その内容を具体的に記述してください。

授業評価アンケートを実施し、教員の授業改善内容を公表している。

また、毎年実施している学生FD CHAmmitの学部提案書（学生・教職員が協働し学部を改善するための意見をまとめたもの）に基づき、教育方法や教育環境の改善・公表を実施している。

点検・評価項目②

大学の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。

＜評価の視点＞

- ・教育研究活動，自己点検・評価結果，財務，その他の諸活動の状況等を適切に公表し，社会に対する説明責任を果たしているか。
- ・教育研究活動の情報として，学生の学習実態，学習上の成果に関わる情報を社会に分かりやすく公表しているか。

⑨ 学部等ホームページに公表している学校教育法施行規則第172条の2第1項に定める以下の教育情報は、最新の情報に更新されていますか。

- (1) 教育研究上の目的
- (2) 教育研究上の基本組織
- (3) 卒業の認定に関する方針
- (4) 教育課程の編成及び実施に関する方針
- (5) 入学者の受入れに関する方針
- (6) 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績
- (7) 入学者の数，収容定員及び在学する学生の数
- (8) 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況
- (9) 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画
- (10) 成績評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
- (11) 校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境
- (12) 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用
- (13) 修学支援，生活支援，進路支援その他の学生支援

[自己評価]

■全ての項目が更新されている。

□一部の項目が更新されていない。

□その他回答

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

- ・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し、その結果に基づき、教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑩ 学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

点検・評価については、生物資源科学部内部質保証推進委員会の下、学務委員会、生物資源科学部自己点検・評価委員会、IR委員会及びFD・SD委員会等が連携することで、内部質保証体制を構築している。

また、執行部会議等とは別に定期的に執行部が集まり情報交換等の会を現在まで開催している。同会において、学部運営に関する諸事項についての情報共有や意見交換がなされ、学部の運営に反映される体制を構築している。

引き続き、各委員会が連携し、教育研究活動の改善・改革を推進し、より一層の質の向上が図られるよう体制を強化する。

・点検・評価結果を基に改善・向上を図った事例

「①グループワーク等を積極的に取り入れた学生主体の授業を増やしてほしい。」という要望や「②答案に対するフィードバックを行ってほしい。また、事後学修のためにも解答用紙を返却してほしい。」という要望への対応への取組事例としては、以下のとおり。

① 実験実習ではグループワークがあるものの、座学の講義においてグループワークを導入している講義はまだ少ないため、座学講義でグループワークを導入するために教員対象のFD研修会等で教員に具体例を紹介する等、各授業への導入の可能性について検討する。また、どのようなグループワークが効果的だったと感じているのかを学生からヒアリングする機会として、学生による授業評価アンケートの活用など、授業改善に向けた取組について検討する旨を学生へ回答している。

② 答案フィードバック要望については、テストや課題後に各教員に解答例や解答を履修者に提示するよう依頼しており、今後は、教員に対してシラバス作成時にテストや課題のフィードバック方法の明示を依頼するなど、学生からの要望に対し、改善を図っている。

2 長所・特色・問題点

なし

基準3 教育研究組織

1 現状分析

点検・評価項目①

大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況

が適切であること。

＜評価の視点＞

- ・大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮した上で、教育研究組織（学部・研究科や附置研究所、センター等）を構成しているか。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取組へとつなげているか。

⑫ 学問の動向や社会的要請等に対応すべく、学科や研究所の新設、学科の改組等、教育研究組織の見直しについて、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究所等については、学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証している。同時に、日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。それらの結果を基に、大型機器の購入、保守、点検及び修繕等のロードマップ（中長期計画）を作成している。そして、ニーズや緊急性に応じたロードマップの見直しも行いつつ、教育研究の環境や組織の改善・向上を図っている。

教育組織については、令和5年の学部改組に伴い、令和8年度に完成年度を迎えることから、当該カリキュラムの検証をするために委員会を立ち上げ、まずは、現カリキュラムの課題点を各学科に対して調査する。

2 長所・特色・問題点

【問題点】

国際地域研究所及び生物環境科学研究センターは現在、稼働することが困難な状況であることが挙げられる。そのため、今後の運用の仕方については、学部執行部及び各運営委員会で検討を開始している。

基準4 教育・学習

1 現状分析

点検・評価項目①

達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的な在り方を示していること。

＜評価の視点＞

- ・卒業の認定に関する方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成及び実施に関する方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。

・上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。

[卒業の認定に関する方針について] (学士課程)

⑬ 授与する学位ごとに定めていますか。

[自己評価]

定めている。

定めていない。

その他回答

⑭ 日本大学教育憲章の「自主創造」の8つの能力との関連性が明確ですか。

[自己評価]

明確である。

見直す必要がある。

その他回答

⑮ 「学生が修得すべき知識」、「技能」、「態度」等、当該学位にふさわしい学習成果を示していますか。

[自己評価]

示している。

見直す必要がある。

その他回答

⑯ 能力（コンピテンシー）の表現は、「～できる」又は「～を身に付ける」に統一されていますか。

[自己評価]

統一されている。

見直す必要がある。

その他回答

⑰ 「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質、能力の目標（学修成果）が明確化されていますか。

[自己評価]

明確化されている。

見直す必要がある。

その他回答

⑱ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。

[自己評価]

なっている。

見直す必要がある。

その他回答

[教育課程の編成及び実施に関する方針について] (学士課程)

⑱ 授与する学位ごとに定めていますか。

[自己評価]

- 定めている。
 定めていない。
 その他回答

⑳ 卒業の認定に関する方針との関連性が明確ですか。

[自己評価]

- 明確である。
 見直す必要がある。
 その他回答

㉑ 卒業の認定に関する方針に基づき、「教育課程の体系」、「教育内容」、「教育課程を構成する授業科目区分」、「授業形態」、「学修成果の評価」を示していますか。

[自己評価]

- 示している
 見直す必要がある
 その他回答

㉒ ステークホルダーが見て、分かりやすく、理解しやすい表現・内容となっていますか。

[自己評価]

- なっている。
 見直す必要がある。
 その他回答

点検・評価項目②

学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

<評価の視点>

- ・学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成及び実施に関する方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

⑳ 各授業科目は、授与する学位（又は、課程・専攻）と整合していますか。

[自己評価]

- 整合している。
 見直す必要がある。
 その他回答

⑳ 各授業科目は、体系的に編成されていますか。

[自己評価]

- 編成されている。
 見直す必要がある。
 その他回答

㉑ 各授業科目の到達目標が、シラバスに明示されていますか。

[自己評価]

- 明示されている。
 見直す必要がある。
 その他回答

㉒ 各授業科目は、学習時間を考慮し、授業期間及び単位が設定されていますか。

[自己評価]

- 設定されている。
 見直す必要がある。
 その他回答

点検・評価項目③

課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

<評価の視点>

- ・ 授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成及び実施に関する方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。
- ・ 授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。

㉓ 学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性を踏まえた対応をしていますか。

[自己評価]

- 対応している。
 見直す必要がある。
 その他回答

㉔ シラバスは、学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容ですか。

[自己評価]

- 十分である。
 見直す必要がある。

その他回答

③⑥ 学生が意欲的かつ効果的に学習できるように、以下の項目について取り組んでいますか。

- (1) 授業の履修に関する指導
- (2) 学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認
- (3) 授業外学習に資するフィードバック

[自己評価]

- 全ての項目について取り組んでいる。
- 一部の項目について取り組んでいない。
- 上記以外の事項について取り組んでいる。
- その他回答

点検・評価項目④

成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

<評価の視点>

- ・ 成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。
- ・ 成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。
- ・ 既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。
- ・ 学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。
- ・ 卒業の認定に関する方針に則して、適切に学位を授与しているか。

③⑦ 成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。

[自己評価]

- 実施している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

③⑧ 成績評価及び単位認定に係る基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。

[自己評価]

- 明示している。
- 見直す必要がある。
- 学生が自身の成績評価に疑義が生じた場合は、まずは科目担当教員に自身で問い合わせるよう促しているが、制度としての成績評価の意義申立制度を設けるなどを検討したい。
- その他回答

③⑨ 既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を、客観的かつ厳格で、公正、公平に行っていますか。

[自己評価]

行っている。

見直す必要がある。

TOEIC 等の資格試験のスコアによる認定制度がないため、現カリキュラム内での対応可否の検討若しくは、次のカリキュラム作成時に認定用の科目を作成するなど、改善を検討したい。

その他回答

④⑩ 学位授与における実施手続及び体制が明確ですか。

[自己評価]

明確である。

見直す必要がある。

その他回答

点検・評価項目⑤

卒業の認定に関する方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

<評価の視点>

- ・ 学習成果を把握・評価する目的や指標，方法等について考えを明確にしているか。
- ・ 学習成果を把握・評価する指標や方法は，卒業の認定に関する方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。
- ・ 指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し，学部として設定する目的に応じた活用を図っているか。

④⑩ 学習成果を把握・評価する目的や指標，方法について記述してください。

学生一人一人の学修の達成状況について把握するために，平成 30 年度から「学修満足度向上調査」を行っていたが，令和 5 年度より，客観的な調査である外部アセスメント・テスト (GPS-Academic (株式会社ベネッセ I キャリア)) を導入し，これからの社会人に必要な汎用的能力である「問題を解決する力」を「思考力」，「姿勢・態度」及び「経験」の視点から測定している。

④⑩ 上記指標や方法を用いて把握・評価した学習成果を，学部等でどのように活用しているか記述してください。

当該アセスメント・テストの結果をFD委員会やIR委員会を通して，活用を検討したい。結果に対する解説レポート，思考力を伸ばすために意識すべきことなどについての結果レポートをフィードバックする。また，今後の学生生活などへの活用について，学年ごとに解説した学年別フォローアップガイダンス動画を提供している。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。
- ・課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。
- ・自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。

⑤① 教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程（カリキュラム）の点検等に当たっては，令和6年度においては，カリキュラム・教員組織検討委員会，学部構想検討委員会及び大学院構想・検討委員会が組織されたため，当該委員会を中心に，社会の動向や受験生・在学生・卒業生の傾向についての情報収集をした上で，カリキュラム改定案が作成される。

⑤② 点検・評価するに当たり，学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報をどのように活用しているか記述してください。

令和5年度に改組したため，進路状況については完成年度の令和8年度までは活用できないものの，学内の成績状況・履修状況による成績不振者対応への改善や獣医学科及び獣医保健看護学科の国家試験の合格率向上への施策検討，各学科で取得できる資格の取得状況など，様々な情報を収集し，カリキュラム検討に活用している。

生命農学科及びアグリサイエンス学科においては農場実習の一環として農業技術検定試験の受験・合格を目指し，その成果を科目の評価の一部にしている。令和5年度は2級合格者が多く，検定協会から団体表彰された。

⑤③ 教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育方法の改善・向上の事例としては，令和6年度に成績不振者対応への対応の改善を図り，面談記録の作成を徹底・管理体制の強化を実施した。

また，学生による授業アンケートの結果を見て，各教員が次年度以降の講義で改善すべき教育方法を記載し，それをホームページに公開している。教員が教育方法等を論文にまとめて投稿できる教職課程論文集を年1回発刊している。

2 長所・特色・問題点

なし

基準5 学生の受け入れ

1 現状分析

点検・評価項目①

入学者の受け入れに関する方針に基づき，学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し，入学者選抜を公平，公正に実施していること。

<評価の視点>

- ・ 入学者の受入れに関する方針は、学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定しているか。
- ・ 入学者の受入れに関する方針は、入学前の学習歴，学力水準，能力等の求める学生像や，入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。
- ・ 入学者の受入れに関する方針に沿い，適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平，公正に実施しているか。
- ・ 入学者選抜に当たり，特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。
- ・ 全ての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。

⑤④ 入学者の受入れに関する方針を学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定していますか。

[自己評価]

- 設定している。
- 設定していない。
- その他回答

⑤⑤ 入学者の受入れに関する方針には，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」，「学力水準」，「能力等の求める学生像」及び「入学希望者に求める水準等の判定方法」を志願者等に理解しやすく示していますか。

[自己評価]

- 示している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

⑤⑥ 入学者選抜を，体制・仕組みに基づき公平，公正に実施していますか。

[自己評価]

- 実施している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

⑤⑦ 入学者選抜に当たり，特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。

[自己評価]

- 整備している。
- 見直す必要がある。
- その他回答

点検・評価項目②

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに，在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

＜評価の視点＞

- ・ 学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。

大学基礎データ（表2）

学部・学科等名称	入学定員充足率の5年平均 (令和2年度～令和6年度)	収容定員充足率 (令和6年度)
生物資源科学部	1.05	1.04
生物資源科学部バイオサイエンス学科	1.05	1.04
生物資源科学部動物学科	1.05	1.04
生物資源科学部海洋生物学科	1.08	1.07
生物資源科学部森林学科	1.03	1.02
生物資源科学部環境学科	1.02	1.01
生物資源科学部アグリサイエンス学科	1.06	1.06
生物資源科学部食品開発学科	1.01	1.01
生物資源科学部食品ビジネス学科	1.06	1.06
生物資源科学部国際共生学科	1.07	1.05
生物資源科学部獣医保健看護学科	1.07	1.04
生物資源科学部獣医学科	1.09	1.08
生物資源科学部生命農学科	1.05	1.03
生物資源科学部生命化学学科	1.04	1.03
生物資源科学部動物資源科学科	1.03	1.01
生物資源科学部森林資源科学科	1.02	1.03
生物資源科学部海洋生物資源科学科	1.07	1.07
生物資源科学部生物環境工学科	0.95	0.87
生物資源科学部食品生命学科	1.08	1.08
生物資源科学部国際地域開発学科	1.06	1.07
生物資源科学部応用生物科学科	1.06	1.07
生物資源科学部くらしの生物学科	1.02	0.99

㉞ 「大学基準協会の評価の指針」により、定員超過あるいは定員未充足の場合は、どのような対策をとっているか記述してください。

該当なし

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・ 学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

- ・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

⑤9 学生の受け入れに関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生受け入れの適切性については、入学者選抜の運営見直しや制度改定を「入試管理委員会」にて検証し、次年度の入学者選抜概要を設定している。検証に当たり、前年度入学者選抜の受験者数、合格者数及び入学者数等の動向を基に検討し、さらには大手進学塾の分析結果を参照し、過年度の全国的な受験者数及び入学者数の変動や地域性の動向、入学手続率、偏差値帯の推移、模擬試験の受験状況、他大学の受験情報等を考慮して、より時代に沿った入学者選抜制度の設計・改善案を委員会で提案し、教授会での審議を経て最終的に学部長が決定している。

入学者選抜概要見直し以外の学生受け入れに関わる改善の取組事例としては、先の入試管理委員会構成員である企画広報担当を委員長とした企画広報委員会で推進されるオープンキャンパスで反映され、イベント時にはより学生目線での情報発信と入学時のイメージを喚起させる意図から学生スタッフの人数を増強した体制・イベントを企画した。アンケート結果にもその狙いによる効果が多数の高評価・感想として見られ、次回以降のイベント参加者増にも寄与している。また、入学者選抜制度見直し時に年内入試募集枠の増加を受け、各種イベント時の入試説明会にも総合型選抜・学校推薦型選抜の解説を手厚く行っている。また、総合型選抜においては積極的な情報発信として新たに「合格体験記」を制作し、実際の合格者（在学生）の体験談を収めた動画を制作し、イベント参加者が途切れることなく視聴する等の効果を確認している。

入試管理委員会での現状把握と分析、入学者選抜制度の見直し等による方向性の策定が、企画広報委員会や入試広報に落とし込まれ、学生募集への改善を図っている。

2 長所・特色・問題点

なし

基準6 教員・教員組織

1 現状分析

点検・評価項目①

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

<評価の視点>

- ・「学部等教員組織編制方針」に基づき、教員組織を編制しているか。
 - ▶専任教員数の遵守、教員の構成
 - ▶教育効果に配慮したクラス編成、専任教員の授業負担への配慮
 - ▶教員の適切な役割分担及び責任の所在の明確化
 - ▶教員の資質向上

▶その他、学部等として重視するポイント

- ・教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。
- ・TA、SA又はGSAを置いている場合、ガイダンスや研修を実施した上で業務をさせているか。

(学士課程)

⑥⑩ 学部・各学科における専任教員数は、設置基準を満たしていますか。

[自己評価]

- 全ての学科において満たしている。
- 一部の学科において満たしていない。
- その他回答

(学士課程)

⑥⑪ 学部・各学科における教授数は、設置基準を満たしていますか。

[自己評価]

- 全ての学科において満たしている。
- 一部の学科において満たしていない。
- その他回答

⑥⑦ 特定の教員に過度な授業負担が生じないように、どのように配慮しているか記述してください。

「教員の勤務に関する内規」にのっとり、学科主任を中心とする各学科等で教員の講義数を割り当てている。さらに、学外で担当する講義等については、本学の講義や教育・研究に支障がない範囲で行うように調整している。

⑥⑧ 教育研究活動を実現するために、教員と職員とがどのように役割分担をし、それぞれの責任を明確にし、協働・連携しているか記述してください。

教育研究活動の実現について、教員は教育及び研究の円滑な運営を図ることを、職員は管理に関する職制及び職制に伴う職務権限の行使により事務の能率的な運営を図ることを目的としてそれぞれが対応しており、それぞれの目的において責任を負っている。

教職員で構成されている各種委員会において、様々な教育研究事項に係る情報を共有し意見を交換しており、その後に各種委員会と同様に教職員で構成されている教授会において、さらに情報の共有化を図り、審議し、一つ一つの教育研究活動を実現している。

⑥⑨ TA、SA又はGSAを置いている場合、どのようなガイダンスや研修を実施し、どのような業務をさせているか記述してください。

ティーチング・アシスタント学生に関する内規を制定しており、教授の指示に従って行う教育・研究に関する補助業務を行っている。具体的には以下のとおりである。

- ① 学部における実験・実習及び演習等の業務
- ② 卒業論文及び卒業実験等の業務
- ③ 大学院における研究指導上の業務

④ その他学部が必要と認める業務

例年4月の新学期開始前に、TAガイダンスを実施し、TAの業務、TAとしての心構え、業務に対する取組方、秘密保持、アカデミックハラスメントやパワーハラスメントの防止及び業務報告書の作成などについて教育・訓練を実施している。

点検・評価項目②

教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

<評価の視点>

- ・教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。
- ・年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。

⑦ 教員を採用するに当たり、どのような方法（公募等）で募集しているか記述してください。

公募（学部ホームページ及びJREC-IN）で募集している。

⑧ 「教員の募集」、「教員の採用」及び「教員の昇任」について、明文化された基準及び手続に従い公正に行っていますか。

[自己評価]

公正に行っている。

基準や手続き方法を見直す必要がある。

その他回答

⑨ 教員の年齢構成に著しい偏りがないように、どのように取り組んでいるか記述してください。

各学科の年齢構成を考慮しながら採用計画を立て、若手の教員を積極的に採用するように取り組んでいる。

⑩ 教員の男女比に著しい偏りがないように、どのように取り組んでいるか記述してください。

学部及び各学科の男女比率を考慮しつつ、業績による公平かつ公正な採用・昇任について審査している。

点検・評価項目③

教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取組を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

<評価の視点>

- ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取組を行い、成果を得ているか。
- ・教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取組を行い、成果を得ているか。

・大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し、教育活動、研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか。

⑮ 教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげるために、どの組織が、どのように取り組み、その結果どのような成果を得ているか記述してください。

学務担当を委員長とするFD委員会を設置し、教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善に資するための企画を立案し実施し、FD研修会の企画・運営、外部研修会の周知を行い、教員としての能力向上に取り組んでいる。

また、上記の活動以外に、日本大学本部が主催する新任教員FDセミナーや学生FD CHAmiT、外部機関主催のFDセミナー等、学内外で実施されている研修会等についても、教員の能力向上に効果が期待されることから、積極的に参加するように教員に促している。

⑯ 教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、どの組織が、どのように取り組み、その結果どのような成果を得ているか記述してください。

学部研究委員会委員及び研究事務課により専任教員全員に対して、毎年、「日本大学研究者情報システム」及び「researchmap」に入力を依頼している。

また、入力されたデータを、本部が実施する各種調査及び研究助成の審査資料に用いることにより同システムへの入力を推進し、活動成果の普及及び活用の促進に資することで、活性化につなげている。

⑰ 教員の教育活動、研究活動、社会活動等に関する業績について、どの組織が、どのように評価しているか記述してください。

教員の教育活動の評価方法を検討するため、学務委員会において検討を開始している。

また、研究活動及び社会活動の活性化を図るため、研究事務課において、科学研究費補助金の申請状況、競争的資金の獲得状況、受託等民間外部資金の獲得状況及び学術論文等の業績を評価している。そして、その評価結果を基に、会計課から各教員に成果研究費を配分している。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取組へとつなげているか。

⑱ 教員組織に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員の配置については、「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」及び「教員配置及び教員配置数の上限」を基に、人事委員会にて、点検・評価を行っている。

2 長所・特色・問題点

なし

基準7 学生支援

1 現状分析

点検・評価項目①

学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

<評価の視点>

- ・学生支援に関する大学としての方針に基づき、各種の学生支援体制を整備し、教員と職員がそれぞれ役割を果たしながら支援を行っているか。
- ・各種の学生支援に当たり、専門的な知識・能力や経験を有する者を含む必要なスタッフを配置しているか。
- ・学生支援に関する情報を学生に積極的に提供するとともに、その支援は学生の利用しやすさに配慮しているか。

[修学支援（学習面）]

- ・学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。
- ・障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。
- ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。

[修学支援（経済面）]

- ・学生に対する経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援等）を、学生の実態等に応じて行っているか。

[生活支援]

- ・学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。
- ・学生の孤立を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。

[進路支援]

- ・各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程等）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。

[その他支援]

- ・上記のほか、部活動・ボランティア活動等の正課外における学生の活動への支援等、必要に応じた支援を行っているか。

[学生の基本的人権の保障]

- ・ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応等、学生の基本的人権の保障を図る取組を行っているか。

[修学支援（学習面）]

㉞ 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるように、どのようにサポートしているか記述してください（補習教育，補充教育，学習に関わる相談）。

学習支援センターを設置し、本学部の教育の基礎となる「生物」及び「化学」の2科目をリメディアル教育として、受講料無料で開講している。

また、入学時に生物・化学理解度確認テストを実施し、新入生の学力を把握するとともに支援が必要と思われる学生にはリメディアル教育の受講を強く勧め、学科専門科目が中心となる上級学年で修学に支障が出ないように指導している。

㉟ 留年者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

学部組織での成績不振対策として、平成27年度から「成績不振学生の早期発見と修学指導の強化」（以下「成績不振学生対応」という）の基準により学生指導を行っている。この基準により原級留置（留年）学生への指導に加え、課題の未提出や欠席が目立つ学生及び必修科目の未登録者等が成績不振、ひいては留年や退学につながる学生として捉え、学級担任又は指導教員による個別指導を行い、学生が修学を進められるように取り組んでいる。

また、年度末には休学や留年をする学生について、当該年度の学級担任が面談シートに所見を記載し、新年度の学級担任への指導方針の情報共有による引継ぎを実施し、不断なく学生指導ができるような仕組みを構築している。

㊱ 退学希望者について、どのように状況を把握し、どのように対応しているか記述してください。

学生が退学を届け出る前に学級担任による個別面談を実施し、退学理由を確認及び対応記録を作成し、関連する事務局と情報を共有しながら、退学希望学生の置かれている状況把握を行っている。

なお、退学までの経緯の中で行った学生に対する個別指導記録を基に、経済的起因による退学を希望する場合は、奨学金制度を案内するなど、退学を回避し学業に専念できる支援を提案している。

㊲ 留年者や退学希望者の減少に向けて、どのように取り組んでいるか記述してください。

成績不振学生対応に準じて、留年者の個々の特性に応じた指導及び助言を適切に行っている。また、退学へと直結しやすい休学者の場合も同様に、学生が休学願を届け出る前に、指導教員が休学理由を確認し、復学から修了までのロードマップを作成し、休学する学生が復学時に感じる不安を軽減する支援を行っている。その際には対応記録及び休学申出者対応シートを指導教員が作成し、その内容を基に教職員が連携し、休学者の休学理由に沿った復学の支援や保護者との面談などを適宜行っている。

[修学支援（経済面）]

㊳ 学生に対して、経済的支援（授業料減免，学内外の奨学金を通じた支援を除く）をどのように行っているか記述してください。

食品会社から食材を無償提供してもらった代わりに食品会社のPRを食堂内で行うことにより、PRメニューを数量限定で格安提供をしている。

また、課外活動で日本代表として国際大会に出場した学生に2万円を補助した実績がある。

その他、食品ロス防止と学生の食事支援のため、廃棄前に学校の備蓄食を「秋の非常食祭り」と称して学生に無料配布をしている。

[生活支援]

⑧④ 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）をどのように行っているか記述してください。

新入生を対象に4月に新入生歓迎会及びサークルへの勧誘として新入生歓迎勧誘期間を開催している。5月には学科対抗のスポーツフェスタを開催して学生同士の交流の機会を設けている。全学生を対象に学生同士の交流の機会が少ないであろう学生には個別にサークル活動への参加を学生課で呼び掛けている。留学生に対しては日本人学生と共に春に交流会、秋には日帰り研修旅行を実施して留学生相互、日本人学生と留学生の交流を図る機会を設けている。また、多くの学科で春に学科独自の1年次生向けのイベントを行い、教員や先輩学生とも交流を図っている。

[進路支援]

⑧⑤ キャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援をどのように行っているか記述してください。

就職支援センターでは全学年を対象とした、事前予約制のキャリア相談コーナーを併設し、エントリーシートの添削や面接練習等を個別に支援している。

ガイダンス関係では、1・2年次向けキャリアガイダンスを実施し、低学年から主体的な未来選択ができることを目標に早期から将来やりたいこと、働く価値観を考え卒業後のキャリアを見据えた行動及び考え方を踏まえた大学生活が送れるようガイダンスを実施し、3年次では就職準備期間の支援として、インターンシップガイダンス、自己分析講座及び学内合同企業セミナー等の支援行事を実施している。また、4年次（卒年次）における未内定者を対象とした支援として、オンライン合同企業選考会や求人紹介セミナー等を開催し内定獲得の支援を行っている。

[その他支援]

⑧⑥ 正課外における部活動・ボランティア活動等の学生の活動について、どのように活性化を図っているか記述してください。

部活動には団体ごとに活動用の補助金を給付し活動を活発化させている。また、日本大学内の学部対抗の体育大会については各団体に参加するよう呼び掛けている。オープンキャンパスでは5月に文化部連盟が、8月には学術部連盟が係員として高校生を誘導する傍らで普段の活動内容の発表会を行っている。

ボランティア活動については、行政から依頼があった場合は内容に沿った活動をしている団体に参加するよう呼び掛けをし、地域の行事には積極的に参加している。

[学生の基本的な人権の保障]

⑧⑦ ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応等、学生の基本的な人権の保障を図る取組について記述してください。

毎年4月に開催している各学年を対象としたガイダンスでハラスメント防止及び人権についての冊子を配布し、学内にも同様の内容で掲示をしている。学生支援室では学生から様々な苦情及びハラスメント相談を聞き入れる体制を構築し、学生のプライバシーを保護するかたちで対応している。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

㊸ 学生支援に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生担当を学生生活に関わる支援検討する委員会の長として任命し、学生生活委員会、学生懲戒委員会専門委員会、学生傷害事故等調査委員会、障がい学生支援委員会及び日本学生支援機構委員会を設置し、各支援の検討や情報共有を行っている。特に学生支援室には月曜日から金曜日までの週5日、本部派遣カウンセラーと学部採用の臨床心理士を毎日2名体制で配置し、増加傾向にある学生相談に対応している。

また、学生支援室の他に独立した障がい学生支援窓口を設け、社会福祉士の有資格者や日本大学インターカールの資格取得者をコーディネーターとして配置し、障がい学生支援業務に当たっており、随時、学生からの相談を傾聴し、教員と連携を図り、可能な配慮を模索している。

2 長所・特色・問題点

【長所・特色】

障がいや特性によって大学生活に困難が生じている学生に対して、悩みを傾聴し、必要であれば然るべき部署へとつなぐことができることが長所であり、特色としては、修学上の合理的配慮制度の手続を担当しており、学生一人一人の悩みに根差した合理的配慮を提供できるよう、教員と連携や調整を行っている。

【問題点】

年々、合理的配慮を申請する学生が増加傾向にあり、また障がいの内容も複雑化してきているため、コーディネーターや教員の支援内容等の負担が大きくなってきていることが挙げられる。

基準 8 教育研究等環境

1 現状分析

点検・評価項目①

教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環

境を適切に整備していること。

＜評価の視点＞

- ・教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか。
- ・学生の学習や教員の教育研究活動の必要性に応じてネットワーク環境やICT機器を整備し技術的な支援を行う等により、それらの活用を促進しているか。
- ・学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。

89 バリアフリーへの対応をしていますか。

[自己評価]

- 全ての校舎において対応している。
 一部の校舎において対応していない。
 その他回答

90 施設、設備等の安全・衛生の確保に取り組んでいますか。

[自己評価]

- 全ての校舎において対応している。
 一部の校舎において対応していない。
 その他回答

91 施設、設備等の維持及び規定に基づいた管理をしていますか。

[自己評価]

- 全ての校舎において対応している。
 一部の校舎において対応していない。
 その他回答

92 学生や教員に対し、ネットワーク環境やICT機器に関する技術的な支援をどのように行っているか記述してください。

各種システム導入時（Box, 無線LAN接続方法等）、システム操作手順をポータルシステムやメールにて周知している。

また、ホームページ内に「学内IT環境の使用方法」を設置しており、学生や教職員が各種システムの使用方法を支援できる環境を整えている。学部内に設置されたコンピューター管理室では、専門職員が対面で技術的な問題の解決に向けたアドバイスなどを行っている。

93 学生の自主的な学習を促進するために、どのように環境整備をしているか記述してください。

学生が自主的な学習を行う場所として、図書館内に個人閲覧室、ラーニング・コモンズ及びグループ閲覧室を設置し、個人学習のみならずグループでの学習も行える環境を整備している。

また、獣医学科学生に対しては、国家試験前の自主学習に空き講義室の利用も可能としている。

94 学生に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

情報倫理の確立に当たっては、本部の情報管理宣言を受けて、リーフレットの配布等の方法により、情報管理教育を進めている。情報倫理の遵守に関わる事項が記述されている「学内IT環境の使用方法」を配布し、ホームページ内にも設置している。

また、薬物乱用防止講習会（令和6年度サークル代表者向け研修会にて実施）においても情報倫理の遵守に関する内容を含んでいた。

⑨5 教職員に対し、情報倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

本部の「情報管理宣言」を受けて、情報管理研修の実施（令和5年度SD研修会にて実施）、リーフレット配布等の方法により、情報倫理を遵守している。

また、情報倫理の遵守に関わる事項が記述されている「学内IT環境の使用方法」を配布し、ホームページ内にも設置している。

点検・評価項目②

図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。

<評価の視点>

- ・図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。
- ・図書や学術情報資料の利用促進するための取組を図っているか。
- ・図書館には、学生及び教員の利用のために、必要な専門的な知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また、図書館等の施設環境が適切であるか。

⑨6 図書や学術情報資料の利用促進のために、どのように取り組んでいるか記述してください。

学生の視点で学生が作成した「図書館ツアー動画（マナー編・案内編）」をホームページ上で公開し、図書館の主な特徴と利用案内を紹介している。また、新入生のキャンパス案内の中に図書館を組み込み、そこで図書館の説明をしている。

⑨7 司書有資格者の人数を記載してください。

専任職員：1人，臨時職員：1人，派遣職員：0人，業務委託職員：5人

⑨8 図書館分館独自の取組について記述してください。

藤沢市など近隣の4市と協定を結び、市民の利用を受け入れている。また、中学生の総合学習の一環としての職場体験を受け入れている。

点検・評価項目③

研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

<評価の視点>

- ・研究に対する大学の基本的な考えに沿って、長期的な視点に立った支援や条件整備を十分

に行い、各教員の研究活動の活性化につなげているか（教員に対する研究費の支給、研究室の整備、研究時間の確保、専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援、若手研究者育成のための仕組みの整備等）。

- ・研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取組を行っているか。

⑨ 外部資金獲得のために、どのような学部等独自の制度や取組があるか記述してください。

科研費で不採択の研究課題が次年度以降に採択される可能性を高めるために、「学部学術助成研究費【個別研究】」という研究助成金制度を設けている。この研究助成金への応募は科研費の審査結果が出た直後から年度末までで、応募課題は学部研究関係委員会での厳正なる審査を経て、GW明けに採択又は不採択が決定する。また、申請書については研究委員会のメンバーが助言・アドバイスをして次年度以降に科研費の採択につながるような仕組みを作っている。

なお、今後の科研費をはじめとする外部資金の申請件数及び採択率向上に向けて、現在、UR A制度の導入も具体的に検討し始めている。さらに、若手研究者育成に向けて、日本学術振興会のDC1、DC2、PD等への申請件数及び採択率向上に向けた取組についても具体的に検討している。

⑩ 研究時間確保や研究専念期間保障のために、どのような制度や取組があるか記述してください。

ティーチング・アシスタントの学生による教員の授業補助業務（事前準備・事後処理等）の実施が、教員の研究時間確保及び研究専念期間保障につながっている。

⑪ 若手研究者育成のために、どのように取り組んでいるか記述してください。

項目99記載の「学部学術助成研究費【個別研究】」においては、主に若手研究者による申請及び採択が実現しており、若手研究者育成に寄与している。また、この研究成果の学内向けの研究発表会（ポスター発表）及び学外向けの講演会も、若手研究者育成に寄与している。さらに、項目99の後半で記載した今後の取組も、若手研究者育成につながるものになる。

⑫ RAやPDを置いている場合、どのようなガイダンスや研修を実施し、どのような業務をさせているか記述してください。

置いていない。

⑬ 学生に対して、研究倫理を遵守させるために、どのように取り組んでいるか記述してください。

大学院生等を対象にガイダンスにおいて、「研究費不正使用防止ハンドブック等の確認について」という資料を使用し、本学の研究者は「日本大学の目的および使命」にのっとり、学術研究の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に良心と信念に従って、自らの責任で行動しなければならないことを説明している。

また、本学ホームページ掲載の「研究倫理・ガイドライン」の内容についても周知徹底を図っている。実験科目の受講、卒業研究などを各研究室において実施するに当たり、年度始めには、試薬やデータの管理・取扱い、安全教育、動物実験、放射性同位元素及び、組換えDNAに関する教育訓練を実施して、研究倫理に関する意識も向上させている。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取組へとつなげているか。

⑭ 研究等環境に関わる事項について、どの組織が、どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また、その結果、改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究所等では、日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。それらの結果を基に、大型機器の購入、保守、点検及び修繕等のロードマップ（中長期計画）を作成している。そして、ニーズや緊急性に応じたロードマップの見直しも行いつつ、研究等環境の改善・向上を図っている。

2 長所・特色・問題点

【問題点】

実験機器の老朽化に対して、更新及び修繕が追い付いていない。

基準9 社会連携・社会貢献

1 現状分析

点検・評価項目①

社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組を実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

<評価の視点>

- ・学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取組を行い、社会に対し周知しているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する取組により、地域や社会の課題解決等に貢献し、学部等の存在価値を高めることにつながっているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知させる取組を行っているか。

⑮ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために、情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設しているか。

[自己評価]

特設サイトを開設している。

特設サイトを開設していない。

ホームページの企業の方へクリックすると各教員の研究内容，学会等での受賞歴等，公開講座等が閲覧できるようにして，社会連携しやすいようにしている。

その他回答

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑩ 社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

各研究所等では，学部研究委員会を中心として社会連携・社会貢献の度合い等を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでおり，社会連携・社会貢献の内容を学部ホームページで公表している。

2 長所・特色・問題点

なし